

5 本時（第5学年：4/11，第6学年：4/11）

(1) 目標

○ 文章と資料とを関連付けて読み、文章に資料があることよさに気付くことができる。

○ 文章中の表現の工夫に着目して読み、表現を工夫することよさに気付くことができる。

(2) 指導に当たって

個別最適な学びでは、資料を使うよさや表現を工夫するよさについて調べる際に、自力解決の部分や方法(ワークシート・タブレット)を選択し、考えさせる。

協働的な学びでは、自力解決で考えたそれぞれの意見を整理し、共通点を見つけてまとめへとつなげさせる。

(3) 実際

※ あ：子供の主体的な学習（個最） い：同学年の学び合い（協働） う：異学年の学び合い（協働） え：積極的な個別対応（個最） （個最）：個別最適な学び （協働）：協働的な学び

指導上の留意点	主な学習活動（第5学年）	過程	位置/時間	過程	主な学習活動（第6学年）	指導上の留意点
<p>あ 必要感をもって課題に取り組めるように、全学年共通のゴール、各学年の単元のめあてと単元のゴールを確認する。</p> <p>あ 資料を効果的に使った意見文を書きたいという意欲をもたせるために、学習計画を基に、本時の学習課題を確認する。</p> <p>あ 必要感をもって課題に取り組めるように、気付いたことに着目し、全体で本時のめあてを設定できるようにする。</p> <p>あ 課題解決に適した方法を個々で選択・決定することで、全体で見通しをもつことができるようにする。</p> <p>え 解決の方法をイメージしやすいように、今までの学習で使ってきた解決法について想起するよう働きかける。</p> <p>え 自分の自力解決の方法や考えの表現の仕方で最適なものを選択できるように、資料を用いた文ごとに切り取ったワークシートやタブレットを準備する。</p> <p>え 資料を使うよさに気付くことができるように、「比べるとわかります。」や、「資料2を見てください。」などの文章と資料とを対応させながら読むよう働きかける。</p> <p>え 自力解決が難しい子供には、「ユーラシア大陸ははさんで東に日本列島、西にイギリス諸島があります。」の文章が説明している「資料1」に着目させ、資料を使うことでどんなよさがあるか考えるよう働きかける。</p> <p>あ・え 早く解決できた子供には、自分が選択した部分以外で資料を使うよさがないか、考えるよう働きかける。</p> <p>い 気付いたことや考えたことの共通点を出し合い、まとめへとつなげることができるよう働きかける。</p> <p>い・う それぞれの振り返りを視覚的に捉えやすいように、学習支援アプリを活用して振り返りを行う。掲示を行うことで、さらに異学年間の交流を深めていく。</p>	<p>1 単元のゴールと単元のめあてを確認する。</p> <p>㊦ 資料を使って、今の奄美の様子を伝える意見文を書こう。 ㊧ 資料をどう使えば、自分の考えが伝わる意見文が書けるだろうか。</p> <p>2 学習課題を確認する。 資料を使うことのよさを知る。</p> <p>3 気付いたことを話し合う。</p> <p>あ ・資料がある文とない文だね。 ・資料があるとどんなよさがあるのかな？</p> <p>4 本時のめあてを立てる。 資料を使うことで、どのようなよさがあるだろうか。</p> <p>5 見通しをもつ。 <答えの予想> あ ・内容を理解しやすくなるかもね。 ・説得力のある文になりそう。</p> <p><解決の方法の予想> え ・教科書の文を読んでみよう。 ・資料を使うとよい理由を書こう。</p> <p>6 自力解決をする。 ・自力解決の部分や方法(ワークシート・タブレット)を選択し、考える。 ・資料を使うよさを見付けるために、資料に関する文に線を引き、資料を使うことのよさを記述する。</p> <p>あ ・地図があると、日本とイギリスの位置を確認しやすいね。 ・色分けした地図があると、気候の違いが一目でわかるね。</p> <p>7 友達と考えを共有する。 ・自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら、資料を使うよさを考える。(黒板、ホワイトボード)</p> <p>8 自分や友達の考えから共通点を見だし、まとめをする。 ・資料を使うことで、読み手は理解しやすくなったり、筆者は言いたいことを伝えやすくなったりするよさがある。</p> <p>9 振り返り・交流をする。 ・学習支援アプリを使って振り返りをさせ、全体で振り返りを交流する。</p> <p>あ 資料を使うよさがあったので、意見文を書くときには資料を使うよさを生かしたいです。</p>	つかむ・見通す	⑩	つかむ・見通す	<p>1 単元のゴールと単元のめあてを確認する。</p> <p>㊦ 表現を工夫して、奄美のよさを伝える紹介文を作ろう。 ㊧ どのように表現を工夫すれば、奄美の魅力を伝えることができるだろうか。</p> <p>2 学習課題を確認する。 表現を工夫することのよさを知る。</p> <p>3 気付いたことを話し合う。</p> <p>あ ・どんな工夫をしているのかな。 ・表現の工夫をしたらどんなよさがあるのかな。</p> <p>4 本時のめあてを立てる。 表現を工夫することで、どのようなよさがあるだろうか。</p> <p>5 見通しをもつ。 <答えの予想> あ ・読む人が興味をもつかもしいないな。 ・より分かりやすい説明ができるかも。</p> <p><解決の方法の予想> え ・教科書の文を読んでみよう。 ・表現を工夫するとよい理由を書こう。</p> <p>6 自力解決をする。 ・自力解決の部分や方法(ワークシート・タブレット)を選択し、考える。 ・表現を工夫することのよさを見付けるために、表現が工夫されている文に線を引き、表現を工夫することのよさを書く。</p> <p>あ ・「めくってごらん」で終わると、なんか先が気になってわくわくするね。 ・いろんな言葉で絵を評価していると、素晴らしいが伝わるね。</p> <p>7 友達と考えを共有する。 ・自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら、表現を工夫するよさを考える。(黒板、ホワイトボード)</p> <p>8 自分や友達の考えから共通点を見付け出し、まとめをする。 ・表現を工夫することで、読み手は興味がわいたり、筆者は言いたいことを伝えやすくなったりするよさがある。</p> <p>9 振り返り・交流をする。 ・学習支援アプリを使って振り返りをさせ、全体で振り返りを交流する。</p> <p>あ 表現の工夫読み手にとっていいことがあるだけだと思ってたけど、筆者にとってもいいことがあるとわかったので、紹介文を書くときに生かしていきたいです。</p>	あ 必要感をもって課題に取り組めるように、全学年共通のゴール、各学年の単元のめあてと単元のゴールを確認する。
		調べる・練り上げる	⑫	調べる・練り上げる		あ 表現を工夫した紹介文を書きたいという意欲をもたせるために、学習計画を基に、本時の学習課題を確認する。
		生かす・まとめる	⑩	生かす・まとめる		あ 必要感をもって課題に取り組めるように、気付いたことに着目させ、全体で本時のめあてを設定できるようにする。
						あ 課題解決に適した方法を個々で選択・決定することで、全体で見通しをもつことができるようにする。
						え 解決の方法をイメージしやすいように、今までの学習で使ってきた解決法について想起するよう働きかける。
						え 自分の自力解決の方法や考えの表現の仕方で最適なものを選択できるように資料の内容ごとに切り取ったワークシートやタブレットを準備する。
						え 表現の工夫に気付くことができるように、「どうだい。」などの書き出しや、「めくってごらん。」などの文末の表現に着目させる。
						え 自力解決が難しい子供には、絵を評価する言葉「実に素晴らしい」や「たいしたものだ」など着目させたい箇所を伝え、読み手がどう感じるかを尋ね考えさせる。
						あ・え 早く解決できた子供には、自分が選択した部分以外で表現を工夫したよさがないか考えさせる。
						い 気付いたことや考えたことの共通点を出し合い、まとめへとつなげることができるよう働きかける
						い・う それぞれの振り返りを視覚的に捉えやすいように学習支援アプリを活用して振り返りを行う。掲示を行うことで、さらに異学年間の交流を深めていく。

